ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety
Vol.13
編集・発行人　松本邦宏
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町15－18　日本橋SKビル
TEL03－3639－0641
FAX03－3639－0640
ホームページ http://www.kasetsuanzen.or.jp/ Eメール info@kasetsuanzen.or.jp 各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

北海道支部	〒060-0807 札幌市北区北7条西4－1－2（札幌九条ビル4F）	電話(011)738－0541	FAX(011)738－0640
東北支部	〒984-0816 仙台市若林区河原町1－3－24（大和第2ビル1F）	電話(022)716－6701	FAX(022)716－6710
関東支部	〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15－18（日本橋SKビル4F）	電話(03)3639－1571	FAX(03)3639－3980
北信越支部	〒950-0951 新潟市九屋野2－11－16（古本工業ビル1F）	電話(025)282－1031	FAX(025)284－7810
中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄3－28－21（愛知建設新会館6F）	電話(052)249－7691	FAX(052)242－6280
近畿支部	〒530-0012 大阪市北区芝田1－4－14（芝田可ビル8F）	電話(06)4802－3071	FAX(06)4802－3070
中国支部	〒730-0017 広島市中区鉄砲町5－21（協栄生命広島鉄砲町ビル5F）	電話(082)511－2051	FAX(082)227－2720
四国支部	〒760-0055 高松市屋島光洲2－2－15（ダイヤビル本館7F）	電話(087)812－0131	FAX(087)812－0130
九州支部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4－10－13（関村第3ビル4F）	電話(092)472－7000	FAX(092)472－7100

事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身体なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる 心豊かな国創り

仮設安全時評

安全への姿勢は企業倫理が尺度になる

日本大学理工学部社会交通工学科教授　都市環境研究会会長　三浦　裕二

建設安全のキーワードは企業倫理である。企業倫理というと往々にして、経済活動と関連付けられるが、本来的に最も重視しなければならないのは人権と人命であり、その尊重や確保のためにも企業倫理が問われることを強調したい。

建設業界の特色の一つに重層構造がある。安全問題を論じる時、この重層構造を避けることはできない。それは、端的にいうと、労働安全の尊さや認識が下層に行くに従い、希薄になっていくからである。

例えば、重層構造の頂点に位置するゼネコンの経営者や労務安全担当の管理者の人たちに、人命尊重という企業倫理につながる意識や努力があったとしても、そのことが下層にまで徹底されない構造になっている。その結果、最終的に末端部に位置する現場作業員に被害が及ぶ。

重層構造と企業倫理にからむ問題に加え、作業に携わる人たちの個人的な問題も指摘しておきたい。人間としての倫理観である。というのも、危険に対する防衛能力や自己防衛本能、いわゆる安全に対する本能が備わり、発揮されているのならまだしも、現状もしくは将来的見通しは残念ながら、高齢化の進展や未熟練者の増加が避けられず、「人の命は大切にしなければならない」という倫理観があったとしても行動が対応できなかったり、未熟練ゆえに対処能力が磨かれていなかったりという物理的な問題がある。

もう一点は、経済合理主義が幅を利かせ、コストパフォーマンスが必要以上に持てはやされる傾向も安全対策の阻害要因となっている面が否定できない。重層構造下で各層ごとに利益を追求すればするほど、安全費用がややもすれば削られることになり、結果として事故は比例級数的に増えていく。

では、どう考えるかだが、最近の社会的動きを例にすると、バリアフリーやユニバーサルデザインの潮流が参考になる。仮設足場の場合、やさしい街づくりと同様に、現場で働く人たちのためのユニバーサルデザイン的な思想を取り入れ、セーフティーネットとしての安全装置を組み込むべきだ。確かに、かつての「けがと弁当は手前持ち」といった自己防衛本能的なプライドは尊重する必要はある。しかし近年、そうした危険への身構えと心構えは希薄になっている。かつての良きプロ意識を前提にしつつ、安全システムを装備しなくては事故撲滅は成し得ないはずだからである。

装備を確実にするためには、安全費用が適正に積算されていなくてはならない。危険への身構えや心構えが希薄であればこそ、安全への配慮が欠かせないし、適正な積算ルールをつくるのは当然のことである。

仮設安全組合にとっても、重層構造のなかで、下層になるに従い安全費用などが上層から不当な扱いを受けないような公明正大な積算基準をつくり上げるのが大きな役割だ。

事故発生の要因の一つに慣れがある。事故は作業中、いわゆる工程を進める中で往々にして発生するが、であればこそ日常普段の点検が必要になる。点検管理者を配置し、積算で明確に位置付けなければならない。場合によっては、安全点検専任の要員も必要だろう。安全はそのくらい重要なのである。

安全の重要性を語れば、コストアップ要因になるし、公共工事を始め建設コストの削減が至上命題となっている時に逆行する行為、といったいい分があるかもしれない。しかし、そうした反動的な意見が出るとすれば、それは非倫理的な発想であるといわざるを得ない。個人の倫理と企業倫理を、いかに重層構造の中で高めていくか。企業倫理に優る企業が良き企業として評価される時代であることを再確認する必要がある。

読者の声

足場安全の点検方法を修得

戒（いまし）めとして「慢心するな」を心がけている。現場に立ち入るとき、ちょっと立ち止まって心の中でつぶやくようにしている。身に付いたというか、癖のようなものである。しかし、作業に従事しているときは、ついつい手際よく器用に、手っ取り早く済ませようという誘惑にかられそうになることもある。不安全行動に目をつむりたくなるのである。戒めが役立つのは、そうしたほんの些細（ささい）な、どうってことのないルーチンワークの際に多い。足場での作業など、その最たるものである。慣れや「俺はすでにベテランなんだ」といった慢心が事故を引き起こす、と肝に銘じている。難しも事故は避けたくない。だから、事前の備えも大事。事前の備えの啓蒙や措置を行おうとしているのがACCESSと理解している。

（匿名、31歳）

いいねえ。小野理事長の言う「墜落・転落や飛来・落下しない足場を提供したい」のことだけど、大賛成だね。つまずいたり、寄りかかったりしてバランスを崩して転落することがあるんだよ、足場は。安全帯ももちろん大事だ。しかし、安全帯を装着していた足場は尽きる。事故発生の原因が作業員のうっかりミスであったとしても、問われるべきは経営者の責任である。ちょっと極端だとは思うけど、「経営者への責任追求が甘いから、なかったり、かえってバランスを崩すこともある。安全帯を過信してはいけない。安全帯は装着するに越したことはないが、メーンではなく、二次的な安全への備えであるべきだ。だから、「小物が落ちるようなすき間もなく、つまずいても落ちない足場」は、いいねえ、理想的だね。いろんな苦服すべき課題はもちろんあるのだろうが、現場の人間にとっては是非とも実現してほしいねえ。

（職長、52歳）

安全確保は経営者の姿勢に多いに負うところがある。ハード面やソフト面の具体的な対策の在り方は、エラい先生方に検討してもらうとしても、元請・下請・孫請などそれぞれの段階での経営者はまずは、本気になって切っていないような気がするのである。

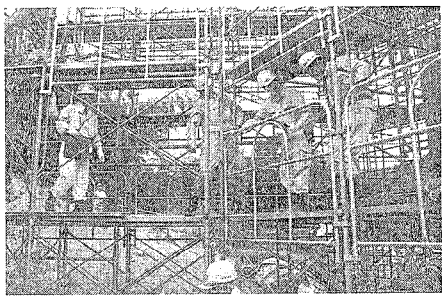
言うか、本気になって切っていないような気がするのであるし、ハード面やソフト面の具体的な対策の在り方は、エラい先生方に検討してもらうとしても、元請・下請・孫請などそれぞれの段階での経営者はまずは、本気になって切っていないような気がするのである。言うか、本気になって切っていないような気がするのであるし、ハード面やソフト面の具体的な対策の在り方は、エラい先生方に検討してもらうとしても、元請・下請・孫請などそれぞれの段階での経営者は身の入らない対策しか打ち出せないのではないか」と言いたくなる。小泉首相は「痛み」を伴う改革をセールスポイントにして人気を博しているが、建設業界の経営者は現場事故に関する限り、本当の意味で痛みを伴うような責任追及が行われる仕組みにはなっていない。どこかで手抜きをしていると言うか、本気になって切っていないような気がするのである。ハード面やソフト面の具体的な対策の在り方は、エラい先生方に検討してもらうとしても、元請・下請・孫請などそれぞれの段階での経営者はまずは、本気になって切っていないような気がするのである。

（とび職、46歳）

北信越支部が安全点検

北陸整備局「安全性を評価」

国土交通省　手すり先行足場モデル工事



国土交通省と農林水産省は、足場からの墜落災害を防止する目的で今年度から直轄工事で「手すり先行足場モデル工事」を実施していますが、このうち国土交通省北陸地方整備局が発注した工事についてこのほど、同整備局からの協力要請を受けた当組合北信越支部が足場の安全点検を行いました。整備局の主任監督員立ち会いのもと、支部所属の仮設安全監理者らが足場の組み方や使用状況などをつぶさに点検して回りました。このうち新潟県山北町の橋梁工事現場で点検に立ち会われた小堀武信北陸地方整備局府屋国道出張所長は、手すり先行足場の安全性を評価するとともに、「現場は施工しやすく、軽くて設置しやすい安全な足場を求めている。関係者は一層の工夫・開発に努めていただきたい」と話していました。

当組合本部が全国の各支部を通じて組合員に事故防止対策の取り組み強化を指示したのを受け、北信越支部では北陸地方整備局を訪れ建設災害防止への協力等の申し入れを行っていました。これに対し同整備局から、同局で予定している4件のモデル工事について当組合による安全点検を実施してもらいたいとの要請があり、同支部では各工事担当の主任監督員や施工者などと調整したうえで、今月7日に美弥橋架設工事（新潟県山北町、施工・横井組）、同13日には千代高架橋下部工事（石川県小松市、施工・吉光組）でそれぞれ安全点検を実施しました。

点検は「墜落・転落災害、崩壊・倒壊災害および飛来・落下災害の防止」に重点が置かれ、当組合所定の「メーカー・機材別点検表」に基づき仮設機材の点検整備状況や仮設の設計監理・施工管理状況などを入念にチェックしました。

点検に立ち会った施工者の代表は、手すり先行足場について「特に解体時の安全性が高いと思う。モデル工事にかわらず、広く採用が求められるのでは」と話していました。

自らも点検作業に当たった同支部の太田雅征支部長は同現場での点検結果について「仮設に関して非常に気配りされており、墜落事故防止に大きな効果が期待できる」と総括していました。

主任監督員立ち会いで

事故報告書の様式変更

10月から運用スタート

国土交通省では10月から、公共工事で事故が発生した際に受注者が発注者などに届け出る「事故報告書」の様式を変更して運用開始します。なかでも墜落、重機、交通事故のいわゆる「3大事故」については、専用の書式を新たに作りました。この様式変更は、事故報告内容を詳しくすることで事故分析をより詳細に行い、事故対策に役立てることにしたものです。電子メール・照度、被害者の雇用・給与などによる提出も認められるほか、国交省では発注者が事故データを検索できるシステムも構築していく予定です。

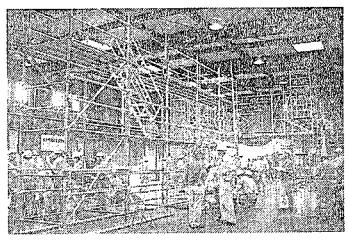
今回の様式変更のポイントは、事故内容や状況などをより詳しく記載するよう求めていた点にあります。追加された記載項目は、事故当日の作業変更の有無、現場の気温・湿度・形態、事故原因者に関する情報――などです。すべての事故に共通する記載項目となります。

また、これまでは1種類の様式ですべての事故を記入していましたが、3大事故については新たに専用の記載項目も設定されました。

例えば、墜落事故については、足場の高さ、種類、墜落個所のほか、安全帯や親綱、手すりの使用・設置状況、点検の有無などを記載することになります。

提出方法は、これまでのフロッピーディスクなどによる提出に加え、電子メールなどインターネット経由の提出も認められます。国交省では2001年度内にも、発注者が事故データを検索できるシステムを立ち上げ、今後の事故対策に役立てる意向のようです。また、将来的には一般公表も視野に入れているようですが、いまのところ企業名や個人名は非公表となる見通しです。

足場安全の点検方法を修得



仮設安全監理者実務研修会

近畿支部

当組合近畿支部（藤井支部長）は8月7日、大阪府摂津市の雇用能力開発機構ポリテクセンター関西で、柴田博美大阪労働局労働基準部安全課長を招き、第1回近畿支部仮設安全監理者実務研修会を開催しました＝写真。仮設安全監理者64名が参加し、組合関係者ら87名が見守りました。

開会にあたり、藤井正光近畿支部長は「われわれの組合は発足して1年が過ぎましたが、ポイントは安全であると思います。昨年来、仮設安全監理者の資格を取得した方々が、本日の研修を通して自信をつけ、より正確な安全点検ができるように、この研修会ができる意義なものにして下さい。昨年の建設業の死亡災害をみると、731名と大変な数字になっています。われわれ組合員が現場の安全点検に力を入れ、死亡者数を減少させるなどの実績をつくることで組合が広く業界に認知されることにつながります」とあいさつしました。

続いて、柴田安全課長が「建設業の労働災害防止に正面から取り組み、尽力されていることに敬意を表します。災害防止の方策では危険個所の洗い出しと対策が重要です。足場の安全点検は、大変意義のあることであり、このような実践を通じた研修で点検の在り方などをマスターして下さい」と講話しました。

続いて実務研修に移り単管足場（神川講師）、枠組足場（神川講師）、システム足場（高田講師）、建て方足場（小蓑講師）の説明と安全チェックシートによる点検が行われた後、各講師の講評が行われました。また、本部の伊東安全監理部長のあいさつに続き、受講者へ藤井支部長から修了証が授与され、石井副支部長の閉会の辞で終了しました。

研修会場には、組立解体時の安全な足場としてアルインコの「シンプルストッパー」、川鉄機材工業の「セーフティーH、シンニッタンのセーフティーレール」、住友金属鉱建材の「ハイシティ」と「ビティガード」、ミ開開式布枠」、日エセ中央ビルト工業の「アルミ開開式布枠」、日エセ「ウルトラセーフティー」「日綜産業の「FIシリーズ」の7社8機が展示され、注目を集めました。

年度内にあっせん事業実現

全国仮設安全事業協同組合近畿支部長　十全社長　藤井　正光さん

組合員58社の近畿支部は、1支部1支所体制。他の支部から、なぜ1支所で運営できるのか聞かれることが多いそうだが、これについて「近畿の中心となる大阪・京都・兵庫はそれぞれ近く、離れている和歌山や奈良などには組合員が少ない」と説明する。

近畿支部では、8月に同組合の自主認定資格「仮設安全監理者」取得者を対象とする第1回の実務研修会を実施しているが、「この安全監理者資格に関する取り組みなどでゼネコンなどへのつながりを強化したい」としており、そのためには「講習のレベルをあげていくことが重要」と認識。次回の研修会では「自分達で実際に足場を組み、それをチェックするような講習などを取り入れたい」という。

組合の当面の課題としては、あっせん事業の実現を挙げる。これは、組合で受注・見積もりしそれを組合員にあっせんするもので、これが実現できれば、組合の認知度向上につながることもあり「何とか年度内に実現させたい」と意欲を見せている。

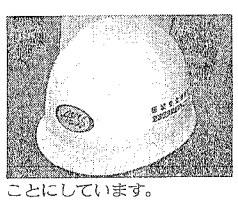
また、「建設業のなかにおいて、仮設業界がもっと認知されてもいいのでは」と語る藤井支部長は、現状について「昨年、大阪でも107人が亡くなっており、前年より増えているのが大きな問題。不幸なことだと思う」と憂う。

特に、リフォーム分野などで、「ゼネコンが放出した中古の材料を使っている業（とび）職の人がいるが、これらは点検なども十分になされていないことも多く、大修事が起きる可能性が潜んでいる。安全にはお金がかかるという事実を理解して欲しい」と訴える。

実務研修会のレベルアップ課題

「経営者にはある程度の余裕が必要」と語る藤井支部長の趣味はオペラ鑑賞など。ただ、なかなかその時間が取れないのが悩みで、「日曜日も会社に出てくることが多い」というように多忙な日々を送っている。

ヘルメットに貼る監理者シール作成



当組合は、ヘルメットに貼りつける「仮設安全監理者」用のシールを作成しました＝写真。

シールは、アクセス（ACCESS）のロゴマークと当組合の仮設安全監理者資格取得者の文字が入っており、仮設安全監理者が足場点検を行う際に、このシールを貼ったヘルメットを着用してもらうことにしています。

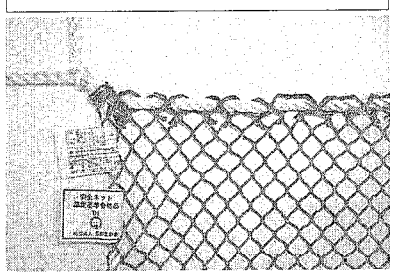
新組合員の紹介

当組合は9月5日の理事会で、新組合員として「株式会社システムショア」の加入を承認しました。これにより、組合員は276社になりました。

養生機材関連製品の紹介

10%軽く作業軽減、運送効率向上

軽量化安全ネット



明治商工株式会社

軽量化安全ネットは、従来品（社内測定）に比べ約10%の軽量化に成功しました。（特許出願中　ナカダ産業㈱）

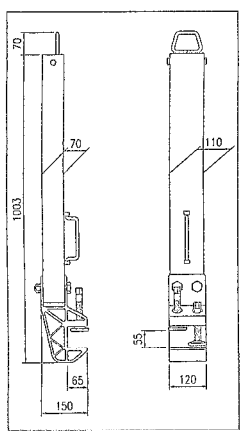
もちろんネットの網強力、耐久性（耐候性、耐磨耗性）は、従来レベルを維持しています。従って、仮設現場での作業の軽減と運送時の効率アップをお約束致します。（仮設工業会認定取得済み）

東京支店　03(3494)6211
東北支店　022(258)8891
大阪支店　0726(69)5311

コーナー部の取付が容易に

直交・平行併用キョーワ支柱

キョーワ株式会社



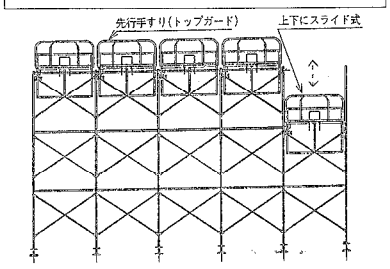
従来、コーナー部の親綱支柱は、取り付けが困難でしたが、キョーワの直交・平行併用タイプの支柱は、どちらの方向でも使用できます。素材がアルミニウムなので9・1㎏と軽量です。鉄骨のフランジ厚さは、50㎜まで使用できます。

本社（TEL06－6262－5288）

新製品の紹介

従来型標準枠組足場に簡単取付

足場組立・解体時の先行手すり（トップガード）



東山産業株式会社

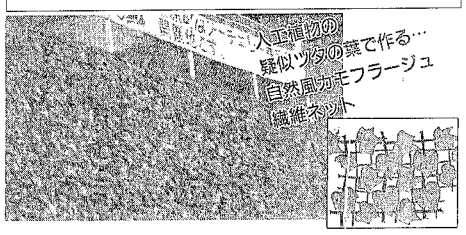
【特徴】
①従来型の標準枠組足場に簡単に取り付け可能。
②基本的に各スパン毎に二セット装着でOK。
③基礎部から簡単な操作で取り付けられる。
④足場を使用する建設工事全期間の安全性を確保。
⑤足場組立途中でもフェンスとして機能する。

日本土木工業協会最優秀賞受賞、日本鉄道建設業協会最優秀賞受賞

東京営業部　中村（TEL03－3710－8441）

設置、取外し簡単　メンテ不要

環境美化商品（ツタマック）



ナカダ産業株式会社

コンクリート壁面・土木・建築現場のカモフラージュに活用できる環境美化商品です。人工植物の擬似ツタの葉でつくる自然風の繊維ネットで、通風性が良好なうえ、設置や取り外しも簡単、メンテナンスも不要です。上網と下網の二重構造になっています。設計価格は、2㍍×2㍍の場合、5000円／平方㍍。

同社（TEL0547－45－3141）